

業績目録

年 月 日現在

山 大 太 郎

ーすべて、最新のものから順次記載のこと。

I 著書

(単著) なし

(共著)

- 1 山大太郎ほか, 多数執筆者 (2006). 止血異常の検査. 212~216, 獣医臨床病理学, 編集委員会編, 近代出版, 東京, 425p.
- 2 山大太郎, 山大次郎, 山大三郎(2004). 獣医内科診断学, 山大四郎監修, 文永堂出版, 東京, 385 p.
- 3
- 4

II 学術論文 (査読付き)

ーCorresponding author には*を付すこと。

ー著者は全員記述のこと。

ー”in press”の論文は、最終受理原稿または校正刷り論文のコピーと受理を証明する編集者からの手紙のコピーを提出すること。

ー可能な限り原著論文にはリンク付き書式で DOI を記載すること。

- 1 Yamadai S, Yamadai J, Yamadai T*(2007). Immunoblot analysis of special antigen bands predictable for *Dirofilaria immitis* infection in cats. Veterinary Parasitology (in press),DOI:<https://doi.org/101016/xxxx.xxxx>.
- 2 Yamadai T, Yamadai J(2006). Comparative study and cDNA cloning of the flavoprotein subunit of mitochondrial complex (succinate-ubiquinone oxidoreductase: fumarate reductase) from the dog heartworm, *Dirofilaria immitis*. Comparative Biochemistry and Physiology, 111B, 491~502, DOI:<https://doi.org/101016/xxxx.xxxx>.
- 3 山大太郎(2004). 犬の全身性強皮症様疾患の1例. 日本獣医師会雑誌, 40, 455~458, DOI:<https://doi.org/101016/xxxx.xxxx>.

4

5

III その他 (査読のない学術論文, 総説, 紀要, プロシーディングなど)

- 1 山大太郎(2006). 感染症の免疫学. 日本獣医師会雑誌, 44, 781~789.

- 2 山大太郎(2005). 栄養と免疫. 獣医畜産新報, 47(6), 487～490.
- 3 山大三郎, 山大次郎, 山大太郎*(2004). 糞便検査によるツシマヤマネコの寄生虫感染調査～新感染虫種 2 種の検出～. 獣医畜産新報, 52, 713～717.
- 4 山大次郎, 山大太郎, 山大三郎(2003). 核の形態変化を指標とした試験管内抗癌剤感受性試験－血液関係悪性腫瘍の経験－. 比較臨床血液研究会誌, 1(3), 51～55.

5

6

IV 学会発表

－最近 5 年間の主なもの 10 件以内を記述のこと.

口頭

- 1 Yamadai T(2005). Immunoblot diagnosis of dirofilariosis in cats. The 20th World Association for Advancement of Veterinary Parasitology. New Zealand.
- 2 山大太郎, 山大次郎, 山大三郎, 山大四郎(2005). オシロメトリック法による犬の血圧測定に及ぼす暑熱ストレスと反復運動の影響. 第 139 回日本獣医学会学術集会. 埼玉県和光市.

ポスター

1

2

V 特許

1

2

VI 参考資料

所属学会

日本獣医学会会員(1969～現在), 評議員(1980～現在)

日本 O O O O 学会会員(1970～現在), 評議員(1984～現在)

日本獣医師会会員(1969～現在)

日本 O O O O 雑誌編集委員 (1990～1993) , 同委員長 (1994～1996)

山口県獣医師会学術委員会委員(2000～現在)

外部研究費の獲得実績

- 1 平成 17～18(2005-2006)年度科研費基盤研究 (C) 一般. 「O O O O に関する研究」

(研究代表者: 山大太郎)

- 2 受託研究(2003). 「O O O に関する研究」(研究代表者: 山大太郎), O O O 製薬株式会社

3

4

各種受賞実績など

1

2